

「公立大津病院々則」の紹介： 古本屋で見つけた医史学資料から

菅 修一

滋賀医科大学附属図書館

滋賀医科大学附属図書館では、“滋賀県医院之印”のある『解剖攬要』（明治10年）を所蔵している。「滋賀県医院」の来歴等について知りたいと思っていたが、特段の情報を得ていなかった。

そのような折、京都にある古書店の販売目録で「公立大津病院々則」なるものを見つけた。掲載内容は、明治13年4月7日に当時の滋賀県令が布達した「公立大津病院々則」と「公立大津病院教則」であった。今回の発表では、「公立大津病院々則」と「公立大津病院教則」の内容を紹介する。また、「公立大津病院」についての手掛かりを求めて滋賀県立図書館で資料を探した際に紹介された『滋賀県沿革誌』（明治44年）によって、「滋賀県医院」は「公立大津病院」の前身であることがわかった。以上により、明治時代の滋賀県の医療の一断片を垣間見ていく。